

「電子顕微鏡のまち・米子市」推進協力会の設立について

趣意書

各 位

時下、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、皆様は、米子市が我が国の電子顕微鏡（下記 注 参照）の開発と研究の発展にパイオニアとして貢献した著名な研究者を輩出していることをご存知でしょうか？ それは、大阪大学名誉教授（電子工学）菅田栄治先生（故人：1908-1988・米子中学 23 期）と鳥取大学名誉教授（解剖学）田中敬一先生（現在 91 才・米子医科大学 3 期・米子中学 40 期）のお二人です。共に、平成 7 年に米子市民栄光賞を受賞され、他の受賞者と共に市役所に写真が掲げてありますので、ご覧になられた方も多いかと思います。

実は、そのお一人 田中敬一先生は退官後「田中 SEM（走査電子顕微鏡）研究所」を開設され、研究を続けておられました。このたび、そこで使用されていた電子顕微鏡装置一式を、米子市に寄贈されることになりました。一方、菅田栄治先生のご実家のある福米地区の方から、米子市を「電子顕微鏡のまち」としてアピールをしてはどうかというお話も出ておりました。

そこで、「電子顕微鏡のまち・米子市」を推進するために、米子市に次のような提案をしました。

田中先生の電子顕微鏡を展示し、お二人の業績を顕彰すると同時に推進協力会を立ち上げ、簡単に操作できる最新式の卓上型電子顕微鏡を新たに設置して、子供から大人まで一般市民が気軽に電子顕微鏡に触って観察が出来る“環境”も合わせて整備するというものです。これに対して米子市より快諾頂き、湊山公園の児童文化センター内に受け入れ準備が始まっております。

つきましては、速やかに「電子顕微鏡のまち・米子市」推進協力会を設立し、環境整備を進めたいと存じます。

歴史的なお二人の先生の業績や装置の展示と、だれでも気軽に本格的な電子顕微鏡を使って観察・研究が出来る環境が米子市に整えば、全国でも類のない「電子顕微鏡のまち」として名実ともにアピール出来るのではないのでしょうか。

何卒趣旨をご理解いただき、多くの皆様に会員としてご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 1 月 20 日

「電子顕微鏡のまち・米子市」推進協力会

発起人代表：坂口千加広